

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

| | |
|---------|-----------------|
| 事業所番号 | 3870104738 |
| 法人名 | 有限会社 ころろ |
| 事業所名 | グループホーム 里山 |
| 所在地 | 愛媛県松山市鷹子町乙402-9 |
| 自己評価作成日 | 平成26年8月30日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人JMACS |
| 所在地 | 愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501 |
| 訪問調査日 | 平成26年9月26日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしい生活が出来るよう、その人の思いを重視し、ここに来て良かったと思って頂ける様関わっている。 ・毎月テーマを決め、勉強を行っている。 ・小・中学校や幼稚園との交流がある。 ・隣に公園があり、地域行事も多く行われる。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

| |
|---|
| <p>事業所は「まもるくんの家」に登録しており、小学生が学習の一環で近くの公園に来た際には、立ち寄ってくれている。公園で行われる地域の盆踊りには、毎年、事業所でヨーヨー釣りの出店を催し、利用者が売り子になる等して地域交流されている。歌や三味線、バイオリン演奏の地域ボランティアの方が来てくれる際には、利用者とおしゃべりして過ごせるような時間を作っておられる。</p> <p>普段は近くの公園に出かけたり、玄関先でひなたぼっこ等できるよう支援されている。個々に、帰宅や墓参りの希望もあり、ご家族と日時の調整を行い、希望に沿えるよう支援されている。職員、利用者ともに「全員で出かけたがたい」思いがあり、年2回は、全員で買い物や食事に出かける機会を作っておられる。ショッピングモールのフードコートやバイキングに出かけると、いつも小食な利用者も食欲が増すようだ。</p> |
|---|

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当する項目に印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) | | |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム里山

(ユニット名) 空

記入者(管理者)

氏名 竹本 亜矢

評価完了日

2014年8月30日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------|------|--|---|-------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | (自己評価) 玄関に理念を掲げ、常に見られる様になっている。また、申し送り時には声を出して理念・社訓の共有をし、ケアを行っている。 (外部評価) 理念は、「明るく健康で、心豊かなその人らしい生活が出来、安らぎのある暮らしを支えます」と作っておられる。社訓「笑顔と感謝と優しい言葉」は、朝礼やミーティングで唱和されている。法人代表者は、「勤務前に職員は笑顔を確認してほしい」とスタッフルームに鏡を設置された。施設長は「職員の笑顔が増え、エプロンの紐の捻じれや身だしなみに変化が見られ、職業人としての意識が高まっている」と、感じておられた。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | (自己評価) 運営推進会議や、ホームの行事時には地域ボランティアの協力を得て、誕生日会やレクリエーション実施している。 (外部評価) 事業所は「まもるくんの家」に登録しており、小学生が学習の一環で近くの公園に来た際には、立ち寄ってくれている。公園で行われる地域の盆踊りには、毎年、事業所でヨーヨー釣りの出店を催し、利用者が売り子になる等して地域交流されている。歌や三味線、バイオリン演奏の地域ボランティアの方が来てくれる際には、利用者とおしゃべりして過ごせるような時間を作っておられる。施設長は、利用者の重度化を考慮して、「地域の方に来ていただきやすい事業所にしていきたい」と話しておられた。お隣にあるアパートの住人は、利用者が外で過ごされる時には気にかけて見てくれており、連絡等をくれることもある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | (自己評価) 家族には認知症に関する悩み等があれば遠慮なく相談が出来る事を伝え、包括支援センター等から要請があれば認知症の勉強会に協力している。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>(自己評価) 運営推進会議にはご家族、町内役員、民生委員、小学校校長等に参加して頂き、事業所の取り組みを報告し、意見やアドバイスを貰い、サービスに活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議時、「地域との連携」について意見交換を行った際には、町内会長から「歌や紙芝居をするボランティアの訪問部隊を町内会で作ろうと思う」という発言もあった。又、小学校長からは、「子ども達に福祉の目を根付かせたい。実際に交流することが一番」というお話があった。又、災害対策の話し合い時には、地域のグループホームとの協力関係作りや、避難後の重度化利用者のケア等についても意見交換された。事業所の外出行事に民生委員の方も付き添ってくださることもある。</p> | |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 運営推進会議時に伝えたり、地域包括支援センターや介護保険課には必要時や問題が起きた時に、その都度相談に乗ってもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方から国の高齢化対策の説明があったり、感染症対策等について情報提供や注意喚起等もある。会議時の小学校との交流の報告がきっかけで、小学校と地域包括支援センターとの関係づくりの橋渡しをされたこともある。</p> | |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 夜間の施錠以外は鍵をかける事はしておりません。日中は安全の為に出入りにチャイムを設置している。身体拘束としての抑制帯やベッド柵は使用していません。</p> <p>(外部評価) ひとりで出かけて行かれる利用者には、ご本人が納得するまで職員と一緒に歩いており、疲れ具合等をみながら車で迎えに来てもらう等して対応されている。車椅子から立ち上がろうとして転倒する心配がある方には、安全ベルトを着用する時間もあるが、職員が横で支えられる場合は、ベルトを外して、立つことができる時間を作っており、毎週、ご家族、職員で支援の評価を行っておられる。「帰りたい」気持ちの強い利用者には、昼間は職員が見守り、夜間は20分置きに居場所を確認することを申し合わせて支援されている。</p> | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) ホーム内での虐待が見過ごされる事が無い様話し合いや勉強会を行い、理解を深め防止に努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 勉強会や研修会に参加し、レポートを提出したり、ミーティング時に内容を伝えたりしている。また、家族や地域でお困りの方にも学んだ事を伝え、おすすめしている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 契約前には面会に出かけたり、見学に来て頂き、納得して頂いた上で契約を結ばせて頂いている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 意見箱を設置・運営推進会議や面会時等で要望をお聞きし、意見を反映するようにしている。 (外部評価) ご家族には、「里山通信」を年4回送付されている。利用者個別の冊子になっており、コメント入りの写真に利用者の様子、スタッフ紹介、伝言等が掲載されている。ご家族からは「元気そうな様子がわかった」「親戚や近所の人に見せている」等、感想を話してくれる方もあり、便りを楽しみにしている方が多いようだ。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|--------------------------|------|---|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 月に1回のスタッフミーティングや、年に2回社長との面接時に意見を聞いてもらっている。また、リーダーを設置し、一人一人と話す機会を設け、意見や提案が出来る機会を持っている。 | |
| | | | (外部評価) 年間研修計画に沿って月1回事業所内で「学習会」を行っておられ、職員が交代で担当して資料を集めて発表されている。又、外部研修を受講した職員は、研修内容を報告してすべての職員で共有できるよう取り組まれている。施設長は、「職員間の情報共有がうまくできていない」と感じておりケアの統一性を図るために「チェック表」を作っておられる。職員は「利用者の楽しいを大切にしたい」、「地域の方が気軽に来られるよう工夫を提案したい」と、話しておられた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 面談を定期的に行い、スタッフの意見や提案、希望や課題に意見を傾け、就業環境の改善に努めている。 | |
| | | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 研修会への参加を促したり、ホーム内の勉強会を行い、レベルアップする機会を設けている。また、希望者には資格取るよう声掛けを行っている。 | |
| | | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | (自己評価) 地域包括支援センター主催のGH交流会や研修会に参加し、他のGHスタッフとのネットワークを作っている。また、地域行事等には現地での交流を行っている。 | |
| | | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 本人の生活歴を把握し、ここでの生活が安心して過ごせるように、入居当初は頻回な訪室を行い、話しかける事を心掛け、困っている事や不安な事等を遠慮なく話して頂けるよう関わると共に、本人、ご家族の意見や要望に応じられるよう努めている。 | |
| | | | | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) | |
|------|------|--|--------|---|--|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) | ホームでの生活に不安が無く、安心して任せて頂けるよう、里山での暮らしぶりを報告したり、ホームに早く慣れて頂ける様、不安や要望を傾聴し、本人や家族の希望に添えるよう努めている。 | |
| | | | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) | 利用者の思いやご家族の希望を知り、適したケアプランを作成し、ご家族にも確認して頂き、そのプランを実行している。 | |
| | | | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) | 家庭的で自立に向けた生活が送れる様、縫い物、洗濯物たたみ、料理や花の水やり等出来る事は一緒に行い、その人その人に出来る事を出来る範囲で行ってもらっている。 | |
| | | | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) | 定期的にご家族と連絡を取り、犯人とご家族が共に過ごす機会を築く為に、運営推進会議への参加や、里山での行事の参加を声掛けしている。 | |
| | | | | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) | 面会者は居室でゆっくり談話されたり、リビングで皆さんと一緒に過ごさせたりと寛いで頂ける様努めている。 また、暑中見舞いや年賀状等、お出ししても良いご友人にはお出ししている。 | |
| | | | (外部評価) | | |
| | | | | | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|---|---|--|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 日々の生活の中で、洗濯物を他の利用者とたたみ合ったり、レクリエーションや散歩等を一緒にして頂いている。食事やおやつ時はスタッフが利用者同士の間に入り、スムーズに会話出来るよう努めている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 外で会った時には様子をお聞きしたり、何か困った事があればいつでも相談して下さいと伝えている。 | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 毎日の生活の中で、して欲しい事や不安な事等をお聞きし、毎日の申し送りでスタッフ間で情報を共有し、可能な限りその意向に沿った生活が送れる様支援に努めている。 | |
| | | | (外部評価) 日々の介護記録「介護支援記録」等に、利用者の言葉やご家族の要望等を記録されている。 | 利用者の重度化等もあり、支援のあり方等を模索しているところである。今後さらに、利用者主体の支援を実践していくためにも、利用者一人ひとりの暮らしの希望についての情報蓄積に力を入れて取り組み、「その人らしい生活」の支援につなげていかれてほしい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 本人やご家族、以前にいた施設や病院に情報提供して頂き、それを記録に残し、日々の関わりの中で把握に努め、スタッフ間で共有し、ケアを行っている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 毎日の生活状態を観察し、記録や申し送りを通して生活パターンや精神面、本人の残存能力や変化の把握に努めている。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) | |
|------|------|--|--------|--|--|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) | 本人やご家族からの意見をお聞きすると共に、その人らしい生活が出来るよう、スタッフ、管理者、ケアマネージャー、場合によって主治医等と相談して介護企画を作成している。 | |
| | | | (外部評価) | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) | 日々の記録に、利用者の発した言葉や気付き等を細かく記入するようにしている。また、情報の共有の為に、利用者個別のカルテ、介護日誌等を使用し、ケアプランの見直しに活用している。 | |
| | | | (外部評価) | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) | その人その人のニーズに沿ったサービスを考え、出来る限り提供出来るよう柔軟に対応している。 | |
| | | | (外部評価) | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) | 地域の高齢クラブや民生委員等の活動内容を教えて頂き、当ホームの行事時に協力して頂いている。また、こちらも協力要請があれば参加している。 | |
| | | | (外部評価) | | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|--|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | <p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医は、入所時にご家族の同意を得て、協力医と契約して頂き、往診に来て頂いている。 専門医の診断が必要な時は、その都度ご家族に連絡し、かかりつけ医の指示のもと、スタッフが同伴し、受診を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に、利用者は、2つの協力医から主治医を決めており、定期的に往診を受けている。夜間の急な発熱等、体調変化があった場合は主治医に連絡して指示を仰ぎ、対応されている。必要時には、夜間も往診が可能である。歯科は訪問診療を受ける方が多い。</p> | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | <p>(自己評価)</p> <p>急変時はすぐに看護師に報告し、必要時は往診。受診を行っている。看護師からも利用者の状態に応じ、適切な助言や対応がある。 また、日々の生活の中で異常に気付けば(足の腫れ、便秘、血圧異常等)その都度看護師に報告している。</p> | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | <p>(自己評価)</p> <p>入院時はサマリーを作成すると共に、入院担当者に日頃の心身の状況、家族の様子を説明している。入院中は、面会や医師との面接に参加して状態を把握し、退院時は事前に状態を聞き、退院後も安心した生活を送れる様、先生や担当看護師と連携を取っている。</p> | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | <p>(自己評価)</p> <p>重度化した場合は、当ホームでの援助の限界を超えた場合は、医療機関へ協力を仰ぎ、本人やご家族が当ホームで過ごす事を望まれた時は、話し合い、対応している。また、リビング・ウィルは入所時に聞ける範囲でお聞きするようにしているが、重度化時は再度本人及びご家族の希望を再確認している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、事業所内の学習会で看取りについて勉強したり、看取り支援の経験を重ねることで不安軽減につながっているようだ。現在、9割の利用者が事業所での看取り支援を希望されている。入居時、及び、状態変化時等には、医師を含めた三者面談で方針等について話し合われている。医師から終末期の診断を受けた場合は、かかわりを多く持てるように、皆が集う居間の近くの居室に移動してもらっている。ご家族と疎遠の利用者があったが、病状等を何度も連絡することで、じょじょにご家族の来訪があるようになり、看取りにも立ち会われて「良くしてもらってありがとう」と感想をいただいた。</p> | <p>施設長は、ケアマネジャーと外部研修等に参加しながら、重度化への対応やケアの方向性を模索しているところである。利用者個々が最期までその人らしく暮らせるような支援に向けて、ご家族と協力し合って取り組みをすすめていかれてほしい。</p> |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------------------|------|--|---|---|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 急変時や事故発生時はマニュアルに沿った対応を行い、救急救命の講習等も行っている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 消防計画を作成し定期的に消防署員の指導の下、訓練を行っている。また、災害時におけるホームの役割や協力体制等を、運営推進会議や地域の防災会議に参加し、話し合いを行っている。 | |
| | | | (外部評価) 夜間の火災想定での避難訓練も実施されている。地域の方の参加もあり、避難後の利用者の見守りをお願いされたが、「何をすればいいのか」と質問等があった。「町内の方が避難してきたら1日は助けて欲しい」と町内会長から依頼があり、町内会長と一緒に備蓄についても考えているところである。消防署の協力を得て、事業所にて救命救急の研修を行ってられる。 | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 一人一人と関わり合いを持ち、相手の事を考え、言葉使いに気を付けながら声掛けを行っている。居室に戻られた際は過ごしやすい環境作りをする等、対応している。 | |
| | | | (外部評価) 普段は、ご自分からは絵を描こうとしない利用者も、絵手紙の先生の手本を見ながらだど絵を描いたというエピソードがあり、職員は、今後さらに「その人らしさをもっと引き出して、意欲や自信につながるよう支援していきたい」と話しておられた。言葉をうまく話せない利用者にも、可能性を探りながら、さらに思いや意向を汲み取っていかれてほしい。調査訪問時、職員は利用者の耳元でトイレ誘導の声かけをされていた。 | ケアマネジャーは、「職員、利用者とも長年の関係で馴れ合いを感じることもある」と話しておられた。職員の利用者への対応や言葉かけは、ケアの質にも大きくかかわることももある。言葉遣いや声の大きさ、トーン等については個々に点検したり、又、ご家族や第三者からの感想等もうかがいながら取り組みをすすめていかれてほしい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 会話やケアの中から本人の思いを知る事が出来る様関わっている。また、なるべく本人の思いを重視して声掛けは行いが、自己決定が出来るように支援していく。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--------|---|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) | 本人のしたい事等をお聞きし、可能な限り支援しているが、内容によっては出来ない事もある。 |
| | | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) | ボランティアの方が2が月毎にカットに来て下さっている。その他にも、希望により美容室に出かけたり、お化粧品をしたり、洋服選び等、個々に合われた支援を行っている。 |
| | | | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) | 一人一人の好みを反映させたり、家庭菜園で採れた旬の食材が豊富に使われており、行事毎のメニューも季節感あふれる献立になっている。利用者も一緒に配膳や片づけを行っている。 |
| | | | (外部評価) | |
| | | | | 利用者に希望を聞きながら事務長が献立を立てており、事業所の菜園で採れた野菜等も使用して食事を作っておられる。調査訪問時、利用者はテーブル拭きや食器の片付け、皿洗いをされていた。食事中は、利用者が入居前に楽しんだ旅行の話や卓上に飾っているお花等の話題が弾んでいた。誕生会には、利用者の希望の料理や手作りケーキでお祝いし、利用者には喜ばれている。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) | 食事量・水分量のチェックを毎日行っている。栄養バランスも偏らないよう工夫し、各利用者に合わせ、食品をカットしたり、ペーストにしたり、トロミを付ける等、安全に摂取出来る様にしている。 |
| | | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) | 食後、口腔ケアを声掛け、介助にて行っている。また、義歯は就寝前に外して頂き、洗浄するようにしている。 |
| | | | | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) | |
|------|------|---|--------|---|--|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) | 1日のトイレパターンを観察し、排泄の時間の声掛けを行っている。また、尿意の無い方も、夜間はオムツでも、日中はなるべくトイレにて排泄して頂くようにしている。 | |
| | | | (外部評価) | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) | ヨーグルトや乳製品、繊維の多い野菜などの飲食物の工夫や、水分量・運動量に気を遣い、排便を促している。3日間出ていない時には、主治医指示にて、下剤を用いている利用者もおられる。 | |
| | | | (外部評価) | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) | 入浴の声掛けをするが、その時間帯が嫌であれば、希望をお聞きし、日を変えたり時間をずらしたりしている。 | |
| | | | (外部評価) | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) | 体調など様子を注意しながらその時の状況に応じて声掛け・見守り支援を行っている。また、寝具は定期的に干したり、シーツを交換すると共に、室温や照明の明るさにも注意を行っている。 | |
| | | | (外部評価) | | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 個人カルテに綴っている薬の説明書をよく理解し、現在の状況を把握するように努めている。 服薬チェック表を用い、のまし忘れや、処置忘れが無いようにし、投与や処置を行ったスタッフの氏名を記入している。 緩下剤は排泄状況を確認し、使用量の調整をしている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 歌・花の水やり・手芸・塗り絵・メダカの餌やり等、それぞれ個性豊かにされ、日々を送られている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 一緒に買い物や食事に出かけたり、美容室に出かけたりしている。観劇を見たいと希望された方には、開催日を確認し、体調が良い日にお連れしている。 | |
| | | | (外部評価) 普段は近くの公園に出かけたり、玄関先でひなたぼっこ等でできるよう支援されている。個々に、帰宅や墓参りの希望もあり、ご家族と日時の調整を行い、希望に沿えるよう支援されている。職員、利用者ともに「全員で出かけた」思いがあり、年2回は、全員で買い物や食事に出かける機会を作っておられる。ショッピングモールのフードコートやバイキングに出かけると、いつも小食な利用者も食欲が増すようだ。入居して長い方が多く、以前は歩行していた方も車椅子を使用するようになり、仲の良い利用者の方に、杖を持つよう勧め一緒に出かけようとするような様子も見られるようだ。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 認知症が進んでおられ、ほとんどの方が理解出来ずお金を所持していないが、買い物ツアーを設け、一緒に買い物を楽しんだり、利用者の希望があれば欲しい品を買ってくる等している。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 本人とご家族に何らかの事情が無い限り、電話や手紙のやり取りができるように支援している。暑中見舞いと年賀状は、担当スタッフと一緒に記入している。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 掃除し清潔を保ったり、空調に気をつけたり、花を活けたりして季節感を取り入れている。 トイレや排泄介助後の居室の悪臭は、換気とスプレーを使い、消臭に努めている。 | |
| | | | (外部評価) 居間には、敬老会の写真、塗り絵の得意な利用者の作品、地域の小学生からのメッセージカード等が掲示されていた。訪問調査日、利用者が庭からお花を摘んで来て活けておられた。昼食後利用者は、職員と会話を楽しんだり、利用者同士でおしゃべりしながら過ごされていた。玄関先のプランターの水やりをする利用者がおられる。居間や廊下の掃除は職員が行っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) 玄関の外、リビング等にソファ・椅子を置き、利用者同士が会話を楽しまれている。 畳で寝転がる方の為に、座布団を用意している。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 入所前に使っていた家具や物品を持って来て頂き、入所後も馴染みのある空間で、居心地良く過ごして頂ける様、工夫をしている。 | |
| | | | (外部評価) 居室の入口には、利用者の顔写真を貼っていたり、目印になるようぬいぐるみを付けているところもあった。利用者が以前作ったショーケース入りの人形を飾っていたり、長寿のお祝いの表彰状や家族写真が飾られていた。ぜんそくのある方には、空気清浄機が用意されてあった。枕元に、いつでも読めるよう新聞や本を置いている方もある。居室は、全室南向きで日当たり良いが、夏場等は日差しが差し込むため、職員が居室の室温計を確認しながら、エアコンで温度調節されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) 屋内外はバリアフリーにし、必要箇所に手すりを設置し、安全に自立に向けた生活が送れる様工夫している。 各室の入口にはその人の写真を飾っているが、居室の場所が解り辛い方には、居室前に目印をつけている。 | |
| | | | (外部評価) | |